

平成30年度第1回総合教育会議 議事録

1. 開会日時 平成30年5月30日(水) 16時～17時12分

2. 会議場 松浦市役所 4階 第4委員会室

3. 出席者

松浦市長 友田吉泰

松浦市教育委員会教育長 今西誠司

〃 教育委員 島田茂明、平原章宏、金井田秀規、氏山智美

〔事務局〕 学校教育課 宮島哲郎

教育総務課 石黒修子、宮崎直人

生涯学習課 近藤寿一

文化財課 内野義

4. 内容

(1) 市長挨拶

(2) 教育長挨拶

(3) 総合教育会議について

(4) 協議

「ともだビジョン」について

5. 傍聴人 無

6. 発言の詳細 以下のとおり(要点記録)

| 【発言者】 | 【内 容】 |
|--------|--|
| 教育総務課長 | ただ今から平成30年度第1回松浦市総合教育会議を開催いたします。はじめに、友田市長がご挨拶申し上げます。 |
| 市長 | <p>教育委員の皆様方には、日頃から松浦市の教育全般にわたって、更には市政全般にわたって、それぞれの立場からご支援ご指導を賜り、またご協力いただいておりますことに、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。</p> <p>私は、2月5日に新しい松浦市の第2代市長に就任しまして、4か月目に入っておりますけれども、日々色々な行事に出席をしたり、会議を開催したり、分刻みは大きいかもしれませんが、大体30分刻みの時間帯で色々なことをこなしていきまして、なかなかじっくり一つのことに向き合う時間がもてないジレンマを感じているところでございます。</p> <p>皆様方には、冒頭申し上げましたとおり、松浦市の教育全般にわたって、それぞれご指導をいただいているところでございます。教育は、学校教育のみならず、生涯学習そして文化財課もあるように、様々な教育の全般にわたって、それぞれのお立場からご指導をいただいているわけでございます。この総合教育会議は、首長である私と教育委員会との意思疎通を図って、今後も松浦市の教育のあるべき姿、何をやっていくかを議論する場であると認識をいたしております。</p> <p>皆様から忌憚のない意見をいただきながら、松浦市の教育水準がさらに向上して、そして「この松浦で生まれ育って暮らすことが本当に素晴らしいな」ということが実感できるような環境をつくってまいりたいと思いますので、よろしく願い申し上げます。</p> |
| 教育総務課長 | 続きまして、今西教育長にご挨拶をお願いします。 |

| | |
|---------------|--|
| <p>教育長</p> | <p>教育委員を代表しまして、一言ご挨拶申し上げます。</p> <p>本日は、今年度第1回目の総合教育会議ということで、こうして友田市長との協議の場を設けていただき、誠にありがとうございます。</p> <p>また、市長におかれましては、「ともだビジョン」の中で、教育に関する大切なことを取り入れていただき、大変心強く、ありがたく思っています。</p> <p>具体的な内容については、この後、お話をお聞きできると思いますが、教育委員としての思いもお伝えできればと思っています。</p> <p>さて、今年度も、ハード面、ソフト面に係る予算の確保にご配慮いただきました。特に、ハード面では、福島中学校屋内運動場については9月末完成をめざし、工事も順調に進んでいます。今後は、鷹島小・中学校の校舎改築となります。また、調川公民館の建設であるとか、田代体育館も今年度完全に出来上がります。松浦市野球場が完成しており、8月下旬から供用を開始する予定でございます。</p> <p>次に、ソフト面では、2020年のインターハイなぎなた会場として、ジュニア層の育成と大会運営に向けた準備を進めて参ります。電子黒板などのICT機器が、昨年度までに市内全ての小・中学校に整備され、どの学校も積極的に活用しております。校長もたいへんありがたいと申しております。また、埋蔵文化財センターをリニューアルしましたが、鷹島2号沈没船復元模型や照明等展示設備の充実、3Dトリックアートにより来館者からも好評を博しています。また、2回目となる水中考古学研究センター主催のセミナーを開催するようにしています。</p> <p>この後の協議では、「ともだビジョン」に関して、その実現のために有意義な意見交換ができればと思っています。</p> <p>結びになりますが、教育は人づくりとまちづくりの根幹と考えます。</p> <p>友田市長におかれましては、今後も引き続き、教育行政推進に対するご尽力をお願い申し上げます。どうぞ、よろしく申し上げます。</p> |
| <p>教育総務課長</p> | <p>ありがとうございました。それでは、協議に入っていたく前に総合教育会議のメンバーが変わられておりますので、この会議について事務局の方から説明させていただきます。</p> <p>お手元に、「資料1」として、「総合教育会議について」お配りしております資料をご覧ください。</p> <p>平成27年4月1日施行の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」により、「総合教育会議」の設置が義務付けられました。その目的は、「地方公共団体の長と、教育委員会が、十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題や、あるべき姿を共有して、より一層、民意を反映した教育行政の推進を図る」ことであります。首長と、教育委員会が協議・調整することにより、両者が教育政策の方向性を共有し、一致して執行にあたる事が可能になります。その、「協議・調整事項」につきましては、資料の下から4行に記載の②「教育の条件整備など重点的に講ずべき施策」と③「児童・生徒等の生命・身体の保護等、緊急の場合に講ずべき措置」となっておりますが、本日は、友田市長にとりまして、最初の「総合教育会議」でございますので、「ともだビジョン」に絡めて、意見交換をお願いしたいと思っております。</p> |

| | |
|-----------|--|
| <p>市長</p> | <p>それでは、これから協議に移らせていただきますが、議事進行につきましては、松浦市総合教育会議運営要綱第5条の規定により、友田市長が行います。よろしくお祈いします。</p> <p>規定により、私の方で、議事進行を務めさせていただきます。</p> <p>今回、第1回目ということで、市長になるにあたってお示しをした「ともだビジョン」について、お話をするようにということでございます。</p> <p>市役所ホームページに「ともだビジョン」の全容をお示しいたしております。あくまでも私の「ともだビジョン」というのは、一般的な選挙のマニフェストということと同列ではあるのですが、将来のまちづくりを行うにあたって、みなさんと何か一つのテーマをもって、そのテーマに基づいて議論をして行きましょうという、あくまで、私が示しているのは「たたき台」だという認識でいます。この「たたき台」を、議論をしながら形づくって行こうということでありまして、ここに書いているから、これを必ずやらなければいけない、ということではないと思っています。「これをやりたいと思っている」と、これをみなさんと議論をしながら、肉付けをしたり、不用なものを削ったりしながら、松浦市の形づくりをしたいと思っているのが「ともだビジョン」です。</p> <p>基本姿勢としては、まずは「市民との対話」を掲げています。やはり、行政は全て市民の福祉向上、このために動いていますから、その主権者である市民の皆さんと、しっかり議論をして、鋭意やりたいということで、対話をしようということ。対話の方法は色々あると思いますが、今、教育委員の皆様方にお伝えすることであれば、市民とは決して有権者、大人だけではないものですから、今、教育委員会にお願いして、市内全15校全てを給食の時間に回って、子どもたちと対話をしようということで、これも、私自身、対話の一つと考えております。4月は御厨小学校、5月は上志佐小学校を訪問させていただいて、僅かな時間ですが、子どもたちと将来の夢とか私の想いとかを語る時間を設けています。こういった場を今後とも大人や子どもを含めてやっていきたいと思っていますところです。</p> <p>もう一つの大きな方向性として、「してん（視点・支点）を変える」ということがあります。ひらがなで「してん」と書いていますが、2つの「してん」、一つは見る「視点」です。もう一つは、支える「支点」です。見る角度というのは、ご案内のとおり、見る角度を変えることで、全く違うものが見える。よく言うのは、工事現場にある三角のコーン。正面から見ると三角形にしか見えないのですが、上から見ると四角です。そして、四角に丸がある。ただ、正面から「三角」と思い込むのではなく、視点を変えることで形が変わることもある。だから、まちづくりを行うにあたって、一方方向からみるのではなく、色々な角度から見ることによって、新たな解決策、新たな可能性が見えるのではないかと、そういう視点を変えていきたいと思っています。もう一つの「してん」は、支える点です。どうしても、ひとつの平均的なバランスを保つためには、一番中心のところに支点をおけばバランスは保てます。しかし、それでは現状維持で、なかなか物事が進ま</p> |
|-----------|--|

ないということがあります。そういった時には思い切って支点を変えてみる。支点を変えることでバランスが変わって、これまで出来なかったのが動く。それによって解決できることがあるのではないかと。勿論バランスを変えることによって、一定のリスクは伴うと思いますが、そういったものを、きちんと管理しながら、支点を変える勇気も必要なのではないかということで、この2つの「してん」を変えるということを基本的に考えているところです。

限られた時間でありますので、最初に教育委員会の皆様方に関係がある「次代の担うひとづくり」について、お話をしたいと思います。

冒頭、教育長から「教育はまちづくり、人づくりなのだ」というお話がありました。そういった意味では、このビジョンの中に、具体的に「教育はどうだ」ということは、私は書いていません。ご指摘もありました。教育をもっとちゃんと書くべきではないかと」とのご指摘もありました。ただ、教育は、冒頭申し上げたとおり、このビジョンは「たたき台」として私は考えていますから、教育は、やはり教育委員会の皆様、このような会議を通じて十分話し合いをしたいという思いがありました。ですから、あくまでも学校教育という意味での教育は、このビジョンには取り入れておりません。やらないということではなくて、皆様と十分、「たたき台」の面から、皆様と話し合いをしたいと思っているのが、率直な思いです。

「まちづくり」の中で大切なのは、未来を担う子どもたちに、どう投資をしていくかだと思っています。「人口減少を防ぐためには、子どもの数を増やす」というのは簡単なことですが、簡単に右から左へは行かない。今、松浦で生まれ育っている子どもたちを、いかに松浦に残すか。このことにしっかり力を注ぐことが、人口維持の第一歩だろうと思っています。もちろん、子育て世代に移住してもらって、人口を増やすということはもちろん、やるべきことなのですが、まずは、松浦で生まれた子どもたちを、地元一人でも多く残したい。そのためには、やはり、子どもたちが残りたいと思うような「まちづくり」をしなければならないと思っています。そのためには、先ほどもICT機器等のお話がありましたが、子どもたちに対しての積極的な投資が必要だろうと思っています。

ICTの導入については、電源立地交付金等など優位な財政政策がありましたので出来たのですが、こういった環境が今後も続くかという、この基金もだいたい使い切っている状況ですので、3年後、4年後こういった投資ができるかという、これは難しいと思います。そこで、今、ふるさと納税の使途として、「子ども支援基金」というのが既に出来ています。前市長時代に作っていただいた基金です。この基金、私はあえて「子ども基金」と書いていますが、この「子ども支援基金」の拡充にあわせて、やはり、定住人口を増やして、働く人たちを増やすということは、市内企業の皆様にとっても望んでいることです。ですから、よく言われる「企業の社会的責任 CSR」といわれます、こういったものの一環として、地域にももっと協力をしていただく。企業の免税の範囲での寄付をいただくとか、そういったことを積極的にお願いする中で、基金を増生して、そしてその基金によって子ども

たちの環境整備を図って行けないかと思っているところが、この積極投資の部分です。

(2) 地域全体で子どもを育む環境づくりへの支援制度の創設というのは、1.「住み続けたい」を実感できるまちづくり(4) 小学校区を対象とした協働によるまちづくりの推進を掲げています。人口減少とともに、職員定数を絞っていかざるを得ない。その中で、市民の幅広いニーズに応えて、「まちづくり」を行っていくには限界があると思っています。やはり、行政がやるべきところ、住民の皆様積極的に参加していただいて「まちづくり」を担っていただくところ、こういった部分が必ず出てくるものと思っています。そこで、松浦市には、それぞれ小学校区単位があります。今、小学校区単位が実は旧町の姿なのです。福島、鷹島、今福、調川、志佐、上志佐、御厨、星鹿と。これに青島が入ります。こういった小学校区単位があつて、一体的に「まちづくり」をやると言いつつも、それぞれの地域が単独でそれぞれ頑張っておられる姿があるわけです。これをしっかり活かすほうが、「まちの一体的なまちづくり」にエネルギーを注ぐよりも、中心になる部分に松浦市があつても、そこに衛星的に各小学校区単位があつて、その小学校区単位で自ら、特徴的な「まちづくり」をやっていただくことが、松浦の姿に一番合っているのではないかとの思いがします。ですので、こういったものをやりたいと思っています。

その中で、地域全体で子どもを育む環境づくりへの支援制度の創設に戻りますが、やはり、それぞれの地域で、子どもたちを育てていく色々な事業があると思っています。こういったものをしっかりやって行かないと、子どもたちは地元の良さを知らないまま、都会への憧れとか額面上の給与の高さだとか、こういったものに魅かれて県外あるいは市外へ出ていく傾向にありますから、それを食い止めることは簡単ではないと思っています。しかし、一方で、「自分たちが生まれた地域はこんなにすばらしいのだよ」ということをちゃんと伝えていく、そういったものについては、積極的にやらなければいけないと思っています。実は、長崎の「おくんち」は、7年に一度、踊り町がまわってきます。この踊り町で「自分は出なきゃいけない」ということで、残っている人たち、帰って来る人たちがいます。やはり、地域のそういった伝統や文化やお祭りというのは、人を引きつけるだけの魅力があると思います。こういったものを、なかなか行政は、それは出来ないというのが、これまでありがちだったのだらうと思いますが、そういったものにも積極的に支援をしていく。それは、単純に地域のお祭りを守るということではなく、定住人口をしっかり維持していくためには「こういった施策が必要なんだ」ということを、きちんと検証して、その上で支援をしていくことが大事なのではないかと思っています。松浦にもそれぞれ地域ごとに育成会や子ども会や、そういったもので具体的に取組んでいらっしゃる場所もあります。どんな方法で支援すれば良いかは、まだまだ結論は出ていませんが、しっかり支援をしながら、子どもたちに地元の良さを教えたいと思っています。

次に、地域を担う人材の育成と誘致です。松浦には魅力的なものや、

魅力的企業が、実はたくさんあると思っています。先般も市内の工業会の皆さんと意見交換をしましたけれども、製品を世界に出荷している会社や盛会的なトップシェアを持つ会社があります。しかしそのことが十分、地域の子どもたち、あるいは、地域の保護者の皆様へ伝わっていないということを感じています。こういうことは、しっかり伝えていかなければいけないという思いがありますので、そういう若い人たち、地元で暮らしている人たちが、この地域で暮らすことに、きちんと誇りが持てるような、そういった取り組み。まずは企業の良さを伝えることも一つですし、あるいは「この地域で暮らすということは、こんなに豊かな面があるんだよ」といったことを教えるだとか、こういったことも、しっかり子どもの、せめて高校生まで、地域にいるときに、しっかり教えたいと思っています。これはやはり、教育委員の皆様にお力添えをいただかなければ、行政サイドではなかなかいかない点があると思っています。やはり、私たちは都会への憧れがありますから、一旦出る人たちはいると思います。しかし、まず、地元の良さ、「地元って良いんだよ。地元にはこういうものがあるんだよ」ということを、ちゃんと教えておくことが、将来「自分の居場所は本当にここなのか」と思ったときに、「いや、やはり小さい時に教えてもらった、ああいう仕事がしてみたい」とか、「やはり、松浦で暮らす方が豊かなのだ」と、そういうことを感じるのではないかと思います。そのためにも、色々な研修の機会を設け、一度出て帰ってきたいと思うような、一度出た人を呼び戻す「誘致」を含めてやっていかなければならないと思っています。

四点目に、ウッドスタートの導入があります。先日、東京に行って、子育て・こども課長と現場を見てきて、課長も非常に感銘していただき、やりたいと申ししておりました。ブックスタートというのがあります。小さい子どもたちに小さい時から「本」に触れあってやって行くというものです。私は、そういう意味合いが、このウッドスタートというのは、強かったのですが、このウッドスタート、やはり子どもたちが木と触れ合って、小さい時から木に触れ合う。木はぬくもりがあって、子どもたちに感じてもらう。松浦市も50%を超える森林があります。こういった資源を活用するためには、子どもたちにも木の良さをわかってほしいということで、ウッドスタートを提唱しています。東京四谷「東京おもちゃ美術館」館長とお話をしたら、「このウッドスタートというのは、「木育」というのは、生涯学習なのだ」とおっしゃいました。「ウッドスタートがあれば、ウッドエンドもあります。ウッドエンドとは最終的に棺桶です」ともおっしゃいました。棺桶の木は実は中国製で、安い中国製の木で作られていて、高く皆さん買っておられる。これは木を基にした生涯学習だと感じました。取り組みは農林課と子育て・こども課で行っていますが、政策企画課だとか、場合によっては教育委員会の皆さんにもご協力をいただいて、この「木育」は進めなければいけないのかなと思っています。木に触れ合って、子どもたちの豊かな心を育むというのが、この「木育」の考え方です。まだ、松浦市としてどう取り組むかというところまで形づくられていませんが、今、「こんなことができないか。あん

なことはできないか」模索している状況です。できれば、今、乳児健診で「だっこ だっこ」という本を配っています。これと同じように、例えば1歳の誕生日に、松浦の木で作った「木のおもちゃ」、松浦市の木で作った、松浦市内の木工職人が作った木のおもちゃを提供したい。それが、ウッドスタートというもので、今、これに向けて鋭意検討中です。こういったことを是非やりたいと思っているところです。

総合計画についてお話をしたいと思います。

1. 「住み続けたい」を実感できるまちづくり（3）幅広い意見を反映させた「第2次松浦市総合計画」の策定です。

行政出身の平原委員や島田委員がおられますけれども、行政は、何かの計画に基づいて、その「まちづくり」をやっていきます。その中心の中心が「総合計画」です。平成8年に合併をして新しい総合計画がつくられていました。総合計画は計画期間を10年間としています。第1次松浦市総合計画は、期間を超えています。ですから、今、松浦市には総合計画はない状態です。それで大丈夫なのかということはあるのですが、丁度、松浦市総合計画の期間満了に前後して、国の「まち、人、仕事創生」の事業が来まして、この総合戦略をつくりなさいと国から来て、今、松浦市はその総合戦略をつくっています。これは、5年間だったと思います。ちょうどこれがダブってきているものですから、総合計画そのものは無いのですが、地方創生の総合戦略があるので、そこで当面の「まちづくり」をやっている状況です。しかし、これはあくまでも国の地方創生に関わる時限的なものですから、松浦市は新しい第2次総合計画をつくらなければならないと思っています。私も市議会、県議会議員をしてきて、総合計画というのは、色々な作り方があるのですね。松浦市がそうだったということではなくて、全国で、こういう総合計画をやっているコンサルタント会社がありますから、そこに丸投げしてつくる。そして、その会社の人が松浦市内のことを分析して、たたき台を出して、色々な肉付けをしたり、削ったりしながら、つくっていくという手法もありますが、今回の第2次総合計画は、幅広い市民の皆様のご意見を伺いながら、もちろん、アドバイザーは外部から招集しますけれども、基本的には、松浦市独自でつくっていきたいと思っています。そこにあたっては、従来、各種団体の充て職で名前を出して、プラスアルファ1割くらいの公募、素人で公募して、公募の人を付け加えて、一般の市民の意見を入れたというような手法がありがちなのですが、そうではなくて、もっともっと幅広い意見を聴きたいと思っています。10年の計画ですから、10年後に大人になる高校生の意見は是非入れたいと思っています。

松浦市は、昨年から松浦高校とタイアップして「まつナビ」という松浦市の課題を高校生に考えてもらって、「このような解決方法があるのではないか」といった提案をもらっています。この延長線として新しい総合計画の策定にあたって松浦高校の生徒さんの意見も是非聴きたいと思っていますし、これから、具体的な手法については、正式に決定していきますが、現時点では、この委員は、対象となる地域、年齢層に対して、「どうぞ、総合計画の策定委員をやりませんか」と

という呼びかけをする手法を今、考えています。なかなか集まらないそうです。もちろんお金を払いませんから。ただ、「まちづくり」に参加するということについて、皆さんの意見をいただきたいということで、そういったかたちで、委員を集めたいと思っています。こうして集めた中で、さらに開かれたかたちにして、ワークショップを開きたいと思っていますから、そのワークショップは委員のみならず、オブザーバーで参加したい人は参加していいと、そういったやり方もやりたいと思っています。そういう人たちの集まりで、総合計画の骨子をつくって、みんなで考えて、新しい松浦市の「まちづくり」をやっていきたいと思っています。

その上で、地域の価値観（松浦らしさ）を確立しなければと思っています。1. 「住み続けたい」を実感できるまちづくりの（2）になります。「地域の価値観」これはアイデンティティです。「アイデンティティ」と書くと、「横文字を使うな。日本語で書きなさい」と言われるものですから。「アイデンティティ」を日本語にするのは難しい。色々な「まちづくり」の本を読む中で、「～らしさ」というのが一番ふさわしいのかなと思って、地域の価値観（松浦らしさ）を確立しようということ提唱しています。これは、鷹島、福島、松浦が合併して13年目ですから、中学1年生です。それぞれに長い歴史があって、鷹島には鷹島らしさがある。福島には福島らしさがある。松浦には50年来の歴史がありますから、松浦らしさがある。では、平成18年1月1日に合併した松浦らしさとは何だろうと思う時に、このあたりが、まだまだぼやけているのだろうと思います。やはり、中学1年生ですから、無くて当たり前だと思います。しかし、これから総合計画をつくって、大人の20歳を目指していくわけですから、その中で、「松浦らしさ」を確立しなければならないのではないかと。「松浦って、どんなところ？」と言われた時に、価値観はそれぞれ違うのでしょけれど、「松浦ってこんなところですよ」と言える、そこをみんなでつくり上げたいと思っています。それが合併した新しい松浦を一体化させるために必要なことではないかと思っています。是非皆さんで、市民の皆さんと、この「松浦らしさ」をつくりたい。これを考えながら総合計画づくりにいくのかと思っています。なかなか、言うは易し、実践するには難しいところも多々ありますが、市民の皆さんと色々な意見交換をしながら、喧々諤々、意見を交わしながら松浦市の明るい未来がつくれればいいなと思っています。

この他にも産業振興や色々と「ともだビジョン」は掲げていますけれども、ご覧いただいて「これは何か」といった質問があれば、対応したいと思っています。非常に雑駁ですが、私の考える「まちづくり」の基本となる「ともだビジョン」の内容についてお示しをさせていただきました。以上です。

これから、意見交換に入りたいと思います。

私には子どもが3人います。3人とも県外に出ています。次女は短大を卒業してから2年間、鷹島で務めたのですが、どうしても都会が

金井田委員

| | |
|-----------|--|
| <p>市長</p> | <p>いいと出て行ってしまいました。長女もやはり佐世保に居たのですが、福岡に行きました。三女は学生です。3人とも松浦高校出身ではありません。鷹島大橋が開通し、唐津商業高校、次女は佐世保の高校に行き、三女は唐津商業高校に行きました。なぜ松浦高校に行かないのか聞くと、「松校に何があるのか？」と。今年度は多少鷹島からも多く入学しています。ただ、どうしても橋が架かり、商業圏が唐津、福岡になっています。鷹島から市役所まで1時間少しかかります。福岡も1時間少しです。だったら、やはり魅力ある都会へ出ていく。その後、呼び戻す体制、市長がお話しされたところですが、魅力あるまちづくりをしないと、帰って来ないということになります。市長と一緒に取り組んで行かなければならないことですが、世界に誇れる企業が松浦にます。鷹島にはマグロの養殖もありますが、フグが低迷してきて養殖業者は少なくなってきました。それに伴って石工業も下火になっています。家業を継ぐ子がいなくて、外に出てしまっているのが現状です。中学の時、私たちが学生の時には「お前は出来るから、長崎の5校、佐世保の3校に行きなさい」と、先生たちの教えでした。しかし、「近くに行って学習しろ」ということだったのかなと、今は思います。</p> <p>私も子ども2人ですが、どちらも松浦にいません。私自身反省があって、私自身が、私は松浦の企業に務めていましたが、その企業がやっていることなどを子どもに伝えてきたか、松浦の暮らしやすさというのを子どもたちに伝えてきたか、と思う時に、伝えていないんですよ。子どもたちが学んでいただけで、親として、それを伝えてきていない。ということがあって、伝えていないのだから、子どもたちが松浦の良さに気付かないだろうなということが正直なところなんです。だから、子どもたちの将来を縛ってはいけないと思いますが、「ここには、こんなところがあるのだ」ということは、もっと積極的に教えていいのではないかということもあるし。確かに、市内だけで働けという話ではなくて、例えば、鷹島からの通勤圏の中に、色々働くところもあるでしょう。そういう所に働きに行ってもいい。暮らすのは、「ここで暮らすのは、こんなに豊かなんだよ」ということは教えてあげたいというのはありますね。</p> <p>県議時代に色々なところを視ていく中で、実は、福井県は、経済産業省が出したシミュレーションで、生涯・・・が、東京で暮らすより3千万円多いという試算が出ています。福井県に行くと「福井暮らし・・・」というのがあって、福井県は基本、共働きだそうです。で、病気でもないのに奥さんが働いていなかったら、近所の人が「なぜ」というところらしいです。そういう文化ももちろんあるからという意見もありましたが、実際に行ってみると、例えば「都会では何歳の時に何坪くらいの家を建てる。平均取得価格がこのくらいだ。都会だと保育料などが、保育所が少ないので中々入園できないから、子どもは精々2人しか産まない」。福井県だと「何歳で家を建てて、200坪のこんな家を建てる。祖父母と暮らしているから、子どもはこれだけ産める」とかいったことを積み重ねて、生涯3千万円くらい福井県がいいと書いてあります。「長崎県もこんなことをやってはどうか」と</p> |
|-----------|--|

| | |
|------|--|
| | <p>ということで、最近、少しそれに近いことをやっています。鹿町工業の求人は、2百何%らしいです。そういう中で、こうなると皆、給料を見ると思います。給料、福利厚生、これは絶対に勝てないでしょう。しかし、自由になるお金、可処分所得を含めて、子どもたちに教えてあげると、確かに給料額面は2.3万円違うけど、実際に暮らす中で「このあたりで暮らすと、このくらいで暮らせるし」、「松浦市内で家を建てるなら、市内の大工さんを使うと、こういう制度がある」とか教えてあげると、都会で暮らすより、こちらで暮らす方が有利だということはあるのです。しかし、こんなことはだれも教えていないんです。こういうことを伝えていかないと、子どもたちに何か引かからに気がします。こういったことも含めて松浦の暮らしやすさとかを積極的に伝えていく努力は必要であろうと。しかし、それを選択するのは子どもたち。そこは子どもたちに委ねるべきだけど、それを聞いていたら、都会で実際に給料は高いんだけど「おれは、こんな仕事をしたかったのだろうか」と思ったときに、「いやいや、地元企業であんなことをやっていたから、面白いかもしれない」と思ってくれるかもしれない。それが、子どもたちの誘致に繋がっていくかもしれないという思いがあります。そういう仕掛けづくりはやはり、やっつけていかなければならない。簡単じゃないですよ。簡単じゃないのだけど、そんなことを今までやってきていないからこそ、やらなければならないのではないかと思います。</p> <p>高校は、鷹島からだと交通の便とか、部活をどうするかという中で、どうしても船の便とかで、限られてしまいますよね。負担だろうとは思いますが、今、松浦市は松校支援で色々なことをやっていて、これは、経済的な支援だけではなくて、今年の3月に卒業した子どもたちから、お礼の手紙をもらいました。ほとんどの子が「こんな支援をしてくれるのは松浦市しかない」「自分は平戸生まれですが、松浦市にいつか恩返しをしたい」といったことを書いていました。これは一つの子どもたちに対する「松浦のよさ」のPRであろうし、そんな取り組みが松浦高校の魅力の一つになれば、もっともっと市内の子どもたちに「松浦高校に行きたい」という選択肢が増えてくるのではないかなと思っています。</p> <p>地理的状況でいくと福島も問題ですね。福島は伊万里までバスが行きますからね。</p> <p>5番目に、地域の「豊かさ」や「暮らしやすさ」などの幸福度に関する独自指標の設定とあります。ブータンは国民が豊かさを感じている度合いが高い。今、松浦のよさを子どもたちが何を見ているか。例えば、歳をとってくると、見るところが違うし、若いうちはまだあれだし、結婚して子育てがはじまるとか、色々なことがあって、市長は、「ともだビジョン」に少しは書いておられますが、もっと具体的に示す指標をつくられて、お金だけではないとか、便利さだけではないとか、そこら辺を発出できればいいのかなと感じています。何かございますか。</p> <p>これは既に先進地では、幸福度指標をつくっている自治体もあります。こういったものを参考に、松浦独自の指標をつくらなければいけないと思います。</p> |
| 平原委員 | |
| 市長 | |

| | |
|-------------|---|
| <p>平原委員</p> | <p>これは、独りよがりになるのではなくて、市民の皆さんから「こういったところは良いよね」というのを集めたいと思っています。これは、「自治体の幸福度ランキング」という本があるくらいなんです。幸福度というのとは何なのか。これは人それぞれの捉え方なので難しいのですが、市民に広く呼びかけることで「松浦はこんなところが良いよ」というのがどんどんあれば、そういったものをまとめて、幸福度指標というのができないのかなと思います。そういったのを子どもたちにしっかり教えていくのも一つなのかなと思います。</p> <p>市長と同じく、私も松浦出身ではなく、親が病気をしたから、松浦に住んでいたから、戻ってきたということなんです。ですので、私が生まれたところに対する愛着とか、育ったところに対する愛着とかは、教えてもらわなくてもやはりあるんですね。で、家庭を持って子どもが出来て、やっぱり今は「ここが故郷」と思っていますから、そういう意識を子どもたちに与えることが必要だし、それを広く出すような何かがあるのだろうと思います。そういうふうにしていくと、心優しい子どもが育つかなと思います。</p> |
| <p>市長</p> | <p>先ほど、ブータンの話が出ました。私も県議時代に幸福度指標ということで、ブータンに行きました。なぜ国民の9割が「幸せ」なのだろうかと。暮らしぶりをみると、私の価値観では9割の人が「幸せ」なんて思えない。本当に貧しい人たちは貧しい感じで、その辺の湧き水で食器を洗っていました。下水道も何も整備されていないところで暮らしています。地元のガイドに聞くと、病気になると祈祷師がやってくるそうです。そんなところ。なぜみんな、そういう所で「幸せ」なのだろうかと。価値観なんですよ。王様がいる町に行くと携帯電話を持つ人もいるし、都会化が進んでいます。後10年後にここに来ると、たぶん幸福度は下がっているのではないかなと思いました。全然肥沃な土地は無いし、ヒマラヤ山脈の一带です。やはり、価値観なのでしょう。だからこそ、「松浦って良いところなのだ」ということを子どもたちに。ちゃんと評価してもらうことが大事かなと思います。</p> |
| <p>氏山委員</p> | <p>氏山さん、いかがですか。</p> <p>私は、ウッドスタートについてです。カントリー系の小物を作っていたことがありますが、木は、結構お金がかかります。その財源をどうお考えですか。</p> |
| <p>市長</p> | <p>財源は、なんとか捻出しなければならないと思っています。子ども育成基金を含めてやらなければならないと思っています。先進地でやっている1歳のお誕生日の時の木のおもちゃは、5千円から1万円くらいです。今、最新の状態だと松浦市の赤ちゃんは、150人くらいしか生まれていません。150万円ですから、何とか出さなければならないでしょう。その150万円が子どもたちの心を育て、そして「松浦の子育てって良いな」「松浦に住みたいな」と思ってくれる人がいれば、更に素晴らしいと思います。全国で「ウッドスタート宣言」をしている自治体が徐々に増えつつあります。長崎県内にはまだありません。「だから、やる」という話ではありません。他の地域よりも、子どもたちに対する向き合い方をきちんとやっているとアピールする</p> |

| | |
|----------------------------------|--|
| <p>金井田委員</p> <p>教育長</p> | <p>ことは、既に松浦市に住んでいる人たちにとっても「新聞に松浦の記事が載るのは「松浦はよくやっている」と言われる。私らからすると、よその自治体も頑張っていると思いますが、そんなふうに見て言われると嬉しい」とおっしゃいます。そういうことのためにもウッドスタートはやりたいと思います。</p> <p>松浦ならではで、「ストーン エンド」はどうですか。墓離れですから。</p> |
| <p>教育長</p> <p>市長</p> | <p>生涯学習、文化財に関しても、しっかりと謳い込んでいただいて有り難いと思っています。</p> <p>「次代を担う人づくり」の中で、学校教育の充実というのを掲げてほしいというのが正直な思いです。私の思いとしては、「松浦の学校に行かせたい」「松浦の小学校ではこんな取り組みをしているから、引っ越してでも行かせたい」と思えるような教育を、最終的には理想としているところです。18年で松浦を去る中で、9年間義務教育を過ごすわけです。その中で豊かな心や生きる力、学力を育てるとするのは、何よりも大切ですし、それが「魅力あるまち」として、将来のまちを活性化する大きな力になっていくと思います。ですので、この中に肉付けしていただけたらと思います。</p> |
| <p>市長</p> <p>教育長</p> | <p>先ほど申しましたとおり、そういうご指摘はありました。</p> <p>学校教育を、正直どのように書いたらいいのか、思いつかなかったというより、どこまで書いていいのかということがありました。やはり、教育というのは絶対必要な分野ですし、松浦市教育委員会の中で、教育方針があるわけだから、これを尊重しながらやらなければならない。その上で、行政としてやらなければならないところは、しっかりやらなければならないという思いは持っています。垣根を取っ払った総合教育会議がありますから、この中で肉付けして、今後の政策はしっかりやらなければならないと思います。具体的なことを皆さんと議論できればと思います。</p> |
| <p>教育長</p> <p>市長</p> <p>平原委員</p> | <p>「ともだビジョン」をご覧になられた時、疑問を持たれるかもしれないと思い、お尋ねしました。</p> <p>「ともだビジョン VOL2」を出さなければなりませんね。</p> <p>逆に言うと「教育委員会」で書かれて、ビジョンに追加するかたちをとられたら、ホームページに出ているようであれば、追加することも大事ではないでしょうか。</p> |
| <p>市長</p> <p>平原委員</p> <p>市長</p> | <p>そうですね、追加していくことは大事ですね。</p> <p>総合計画が出来るまであと数年かかるのですか。</p> <p>総合計画は、今のところ、来年の9月を目途にやろうということにしています。具体的に、6月議会には総合計画策定に向けた予算措置をお願いします。</p> |
| <p>教育長</p> <p>市長</p> <p>島田委員</p> | <p>その中では、学校教育について加えていただいて。</p> <p>そうですね。</p> <p>今、お話を聞いていて、「してん を変える」ということは、非常に素晴らしいことだと思います。やはり、同じことでも別の方から見るとというのは大事だと思います。教育でもそうです。子どもはひとり一人違います。偏見といいますか、偏った見方をすると、見間違い</p> |

| | |
|--------------|---|
| <p>市長</p> | <p>ます。色々な方向から見なければいけないというのは基本だと思います。「してん を変える」ということは、全てに言えることだと思います。例えば、閉校になった養源小学校の跡地活用をどうするかについても、普通でしたら、施設を何か活用して、青少年施設とか民泊だとかいう考えもありますが、色々な方向で考えてみるのが大切で、それが「まちづくり」に繋がるのかなと思います。</p> |
| <p>金井田委員</p> | <p>元寇は、旧鷹島町時代から取り組んでこられた結果が、文化財に繋がっています。元寇は、教科書で習って知っているのでしょうけれど、それが鷹島にあるということが、一時ブームになって新聞にも取り上げられましたが、だんだんまた忘れられている気がします。そういいながらも、文化財課で頑張って情報発信もやっています。先日も漫画家の「たかぎ七彦」先生が来られて、「アンゴルモア」という漫画がアニメになる。ただ、文永の役で、直接ではありませんが、そういうきっかけ、取り上げていただくことで表に出すことが必要です。あれは、松浦市、長崎県で引き揚げは出来ないと思います。今の財政状況の中で、ですね。いかに国策でちゃんとやらしてもらおうかが大事だと思います。「してん を変える」という意味では。ただ、単純に「国策で、国策で」と言っても国は動いてくれないと思います。これがどのような国益に繋がるのかということ、地元の間は訴えないといけないと思います。当時の屍が流れ着いて、星鹿の城山下あたりに流れ着いて、それを上げて千人塚がある。750年近く経っても未だにそこには花が手向けられています。そういう人たちを松浦の人たちが守っているわけです。これは、近代史だけでいくと日中戦争だとかで「日本人は悪い奴らだ」と言われますが、「750年前は悲しい歴史があったのだけれど、未だにそうして大切にお祀りしている」ということとかを、お互いの国同士の友好の深化、深めることにできないのかということがあります。こういったところをきちんとクローズアップして、「これは悲しい歴史だけではなく、近代史で語られがちな日本人の残忍さとか、そういうことを乗り越えて、日本人の良さがここにあるんだ」ということを訴えることができればと思うのです。歴史的価値に使えないのかと思います。松浦市ではそういったことを地道に訴えていくことが必要かなと思います。</p> <p>養源小学校の東校舎は、ノスタルジックな映画に使いたいですね。この間、若手の方々とお話をしに行きました。何か提案をしていただきたい、出してもらえないかと地元のひとと話が出来ないからと話をしました。彼らもその気になっています。本当、東校舎は活用したいですね。あの長い廊下で、雑巾がけ（Z1）レースや、赤ちゃんハイハイ競走をやりたいですね。</p> |
| <p>市長</p> | <p>2. (13)にある「アジフライ」は是非ブランドにして、人を呼び込んでいただきたいと思います。鷹島のフグは確かに高価なものであるし、簡単に食べれるところが良いなと思います。</p> <p>「ともだビジョン」は、40数項目ありますが、マスコミが面白いのは「アジフライの聖地をめざす」です。追い風だと思っているのは、調川にウェストフーズジャパンがあります。そこが、すでにアジフライを作っておられます。もともと作っておられたようですが、市</p> |

| | |
|------------|---|
| | <p>場に出回っている加工品のアジフライは、一度アジを冷凍して海外に送って、海外で解凍して捌いてパン粉をつけて、もう一度冷凍して持ってくる。2フローズンです。ウェストフーズジャパンは、松浦魚市場で水揚げされたアジを買って、生きていたまま加工して、パン粉をつけてフローズンする。1フローズンです。味が全然違うということです。松浦をアジフライの聖地と言う以上は、企業と作ろうということで、まず、松浦魚市場で水揚げされた、もしくは松浦近海でとれたアジを使い、ノーフローズンもしくは1フローズンであること。そういうルールを決めて、松浦の味はこれだということをやろうと思っています。ウェストフーズジャパンが、そのアジフライを大手コンビニに出そうという動きがあります。また、福岡事務所も色々手を考えています。市内の飲食店には、アジフライのメニューを出していただいて、パン粉に拘ったり、ソースに拘ったり、お店にも色々あると思います。こういったこともやりたいと思いますし、この6月議会にはアジフライマップを製作する予算をお願いしようとしているところです。</p> |
| 島田委員 | <p>福島町の地形と景観を活かしたオルレコースの認定取得と観光客誘致とあります。認定されると何か特典があるのでしょうか。</p> |
| 市長 | <p>韓国の済州島からスタートしたレジャーです。ハイキングとピクニックの間くらいの感じです。認定されると、ここが認定されましたということで、福岡の韓国総領事館から認定していただいて、本国にもPRできるわけです。そうすると外国人の旅行者とかいった人たちが来て、国内にもオルレコースに行きたいという人がいますので、そういう人たちを呼び込むきっかけになるかと思います。何処をコース認定するかということで、食と観光のまち推進課が検討しているところです。</p> |
| 島田委員 市長 | <p>現在やっているウォーキングコースを活かしてはどうでしょうか。そうなのですが、オルレコースは、コンクリート舗装が多いとダメといったルールがあるものですから、一般の道より、ちょっと普段歩かないような道を選んだ方がいいのかなと思います。その辺は地元の皆さんから意見を出していただいてやりたいと思います。</p> |
| 教育総務課長 | <p>次に、その他の項に移ります。 皆様方から何かございませんでしょうか。 なければ、事務局からどうぞ。</p> |
| 市長 | <p>総合教育会議は、1学期ごとに開催する予定です。次回は、11月か12月でお願いしたいと思っています。 以上をもって平成30年度第1回総合教育会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。</p> |